

河内小だより

平成22年10月6日 No.24



「全国学力・学習状況調査」や「基礎・基本定着状況調査・生活などに関する調査」結果から、学校では対策を検討し、できることから取り組んでいます。例えば、下記のように平成20年度に3つの問題点を挙げました。①読み取る力が弱いことです。複数の文章を比べたり考察したり判断したりすることや、算数の文章題が苦手な児童が多いようです。②書くことが弱いことです。自分の考えや思いを相手に伝えることが不十分なことが、日常生活でもトラブルが多い大きな原因だと思われます。③個人差が大きいのですが、テレビ等の視聴時間

間が長いので家庭学習の時間が短いことです。家庭での生活習慣は学習の定着に大きな割合を占めます。

対策として、毎日10分間の朝の読書時間を設け、できるだけ書くことを多く取り入れ、たり基本的な生活習慣や学習規律の定着の大切さを子どもたちに指導したり、保護者の皆様へ訴えてきました。個々人では、日頃の実践の成果が現れているようですが、学年全体としては、個人差が大きく数字上の変化は大きくかわっていません。家庭学習の習慣化はぜひ必要です。これからも協力して進めていきたいものです。読書もただ読むだけではなく、考えながらまた課題を持って取り組みたいものです。再掲になりますが、読解力についての資料を掲載しますので、参考にしてください

読解力について

(資料：家庭で楽しく！子どもの読解力がぐんぐん伸びる本 発行：ベネッセコーポレーション)

今の読解力：内容を正しく読み取ったうえで、自分の意見を述べるまで求められている。

理由：社会に出たとき、相手が伝えようとしている内容を正確に読み取るだけではなく、さらに相手の意見を受けて自分の考えを論理的に伝えることが欠かせないからです。また、文章だけでなく、図式やグラフや地図などから内容を読み取れることも重要な力であると考えます。

「読解力」は、(1)情報の取り出し、(2)解釈、(3)熟考・評価の3つのプロセスに分けられます。

- (1) 内容を解釈するために情報を取り出します。情報の取り出しに必要なのは、気づく力と比べる力です。与えられた情報に対して「どうしてだろう」「なぜだろう」という気づきは、他と比較することから生まれます。他と異なる部分、特徴に注目することから、自分なりの気づきを得ることができます。
- (2) 情報がどういう意味をもつのかを考えます。解釈に必要なのは、体験・知識を使う力です。自分の過去の体験や自分の持っている知識と照らし合わせ、情報にあった知識を取り出し使えることが大切です。
- (3) 自分はどうか考えるのか、どう評価するのかを考えます。熟考・評価に必要なのは、物事を多角的に見る力です。情報を解釈したうえで、他の立場や視点でも同じことがいえるのかと多角的に見る力です。様々な角度から物事を評価し、結論づけることで自分の意見に説得力をもたせます。